

## 複合動詞「動詞連用形+かける」の研究

呂, 芳

<https://doi.org/10.15017/1398299>

---

出版情報 : Kyushu University, 2013, 博士 (比較社会文化), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 : Fulltext available.



氏 名 : 呂 芳

論文題名 : 複合動詞「動詞連用形+かける」の研究

区 分 : 甲

### 論 文 内 容 の 要 旨

複合動詞「動詞連用形+かける」は、日本語の複合動詞の中でも使用頻度が高い、いわゆる典型的な複合動詞のひとつであるにも拘わらず、これまでそれを中心に扱った研究は極めて少なかった。本論文は、そのような複合動詞「動詞連用形+かける」の実態を、特に同形式の後項動詞である「-かける」と本動詞「かける」との意味的・統語的な関係、前項動詞と後項動詞「-かける」の意味的・統語的關係といった観点から明らかにした複合動詞「動詞連用形+かける」の総合的研究である。以下、本論文を構成する各章の内容を示す。

第1章では、本論文の目的と研究方法を述べ、第2章では、先行研究を概観した。

第3章では、複合動詞「動詞連用形+かける」の意味機能に深く関わる本動詞「かける」の様々な意味を、その格体制、また、その「ヲ格」「二格」に出現する名詞の特徴に注目しながら整理した上で、ラネカー(1987,1988)に基づき、各意味間の関係を説明する本動詞「かける」のネットワーク・モデルを提示した。

第4章では、複合動詞「動詞連用形+かける」の意味用法を、第3章で明らかになった本動詞「かける」の意味特徴との関係という観点から検討した。まず、複合動詞「動詞連用形+かける」は、影山(1993)が提示した統語的テストに従って「指向」を表す語彙的複合動詞「vかける」と「始動」局面を表す統語的複合動詞「Vかける」に分けられることを示した。次に、「指向」の「vかける」は、その意味特徴および格体制から本動詞「かける」の拡張と見なされること、一方、「始動」の「Vかける」は、それが表わす「当該事態の中断」という意味が本動詞「かける」の基本的用法が表す「対象の<「点的」な接触=不安定(不完全)な接触>」と概念的に関わっていることから本動詞「かける」の拡張と見なされることを明らかにした。

第5章では、語彙的複合動詞「vかける」の前項動詞(v)と後項動詞「-かける」の意味的・統語的關係を影山(1993)が提唱する語彙概念構造理論を用いて考察した。その結果、前項動詞(v)と後項動詞「-かける」の関係については、① (i)前項動詞が後項動詞の「手段」または「様態・状況」と解釈されるタイプ、(ii) 前項動詞と後項動詞が「補文関係」になるタイ

ブ、(iii) (i)(ii)のいずれのでもないタイプの3種類があること、②語彙概念構造理論は(i)(ii)のタイプはうまく説明できるが、(iii)のタイプは説明できないことを示した。

第6章では、統語的複合動詞「Vかける」の「タ形」、すなわち、「Vカケタ」の意味特徴と前項動詞の種類の間を考察した。その結果、「Vカケタ」は当該事態が「中断」したことを表すが、開始点と終結点の二つの限界点を持つ動詞が前項動詞になった場合の「中断」は、当該事態の開始そのものの「中断」、あるいは、開始した当該事態が終結点へ到達することの「中断」を表し、開始点と終結点重複した一つの限界点しか持たない動詞、あるいは、限界点として開始点しか持たない動詞が前項動詞になった場合の「中断」は、当該事態の開始そのものの「中断」を表すことを示した。

第7章では、寺村(1984)が同じ「始動局面動詞」と呼ぶ「Vかける」「Vはじめる」「Vだす」の間に見られる相違点をその「タ形」を基に考察した。その結果、①「Vカケタ」は工藤(1995)の動詞分類の中の「主体変化動詞」また「内的限界動詞」を前項動詞として取りやすいのに対し、「Vハジメタ」「Vダシタ」は共に工藤(1995)の分類の中の「主体動作動詞」を前項動詞として取りやすく、前項動詞の限界性の有無については明示的な傾向は見られなかった、②「Vカケタ」は当該事態の「中断」、「Vハジメタ」は当該事態が開始後、終結点に向かって展開したこと、「Vダシタ」は当該事態の突発的な「開始」のみを表すことが明らかになった。

第8章では、統語的複合動詞「Vかける」の意味機能とテンス・アスペクトの関係を考察した。その結果、①完成相の「Vかける」、継続相の「Vかけている」の意味解釈には前項動詞の「限界点」のあり方が関係する、②限界点一つしかない動詞の完成相「Vかける」は当該事態が開始する前の「中断」、その継続相「Vかけている」は当該事態の開始点への「接近」を表す、③開始点と終結点の二つの限界点を持つ動詞の完成相「Vかける」のうち、当該事態の開始前の局面が認知しにくい動詞の完成相「Vかける」は当該事態が開始した後の「中断」、その継続相「Vかけている」は当該事態の開始後の終結点への「接近」を表し、当該事態の開始前の局面が認知しやすい動詞の完成相「Vかける」は当該事態の開始の「中断」および当該事態が開始した後の「中断」、また、その継続相「Vかけている」は当該事態の開始点あるいはその終結点への「接近」の両方を表すことを明らかにした。

第9章では、本論文のまとめと今後の課題を述べた。